

特別講座 中医学の日本への影響と発展(全5回)

昨年度は中医学の歴史を開講。多くの中医学の古典について勉強しました。今年は中医学が日本へ渡来したことで日本の医学へいかなる影響があり、どのような発展をしてきたかを学習しましょう。

「中医学や日本の医学について、その歴史を学んでみたいけれど、何から勉強を始めたらいいかよくわからない」そんな方々へ今回は、昨年と同じく東洋医学の古医書の収集・保存・公開に携わっている研医会図書館館長の安部郁子先生をお迎えし、「中医学の日本への影響と発展」と題して奥深い医学の歴史の入門編となるお話をいただきます。中医学の教科書は古典を解釈し、現代の言葉で書き直したものです。その元となる書籍を紹介し、編纂されてきた日本の歴史背景も踏まえて講義していただきます。

どなたでもご参加いただけますので、お知り合いの方をお誘い合わせの上、お申込み下さいますようお願い申し上げます。

場 所：〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 22 番 6 号 マルカ日甲ビル 2 階 本草薬膳学院教室
Tel：03-6206-2751 FAX：03-3662-3800 E-mail: haiyang@honzou.jp

時 間：13：00～15：00（2時間／1回・第4水曜日 ★11月19日第3水曜日）

講 師：安部 郁子（公益財団法人研医会図書館長 研究員）

教科書：プリント 持ち物：筆記用具 入学金・施設維持費：不要

授業料：20,000円。1回：4,500円 ※但し、5回すべてご参加で一括振込みの場合の料金は2,500円お得になります。

先着30名（申込順 定員になり次第締切ります）

教育内容：

	日付と時間	申込み・振込み締切日	内 容
1	2014年7月23日(水)	7月16日(水)	中医学の日本への渡来： 古代～中世 「鑑真」『医心方』『頓医抄』『萬安方』『福田方』 『喫茶養生記』
2	2014年8月27日(水)	8月20日(水)	医学体系・後世派： 中世後期 「金元医学」「田代三喜」「後世派」『啓迪集』
3	2014年9月24日(水)	9月17日(水)	医学体系・古方派： 近世～江戸時代 「香川修庵」「吉益東洞」「古方派」「古方派と後世派」 『傷寒論』
4	2014年10月22日(水)	10月15日(水)	折衷派、漢蘭折衷派： 江戸時代 「折衷派」「漢蘭折衷派」「多紀元簡」「永富独嘯庵」 『類聚方広義』
5	2014年11月19日(水) ★第3水曜日	11月12日(水)	明治以降の変化： 江戸時代～近代 「湯元求真」「皇漢医学」「一貫堂医学」 「漢方の排斥と復興」『医界之鉄椎』

※申込書をお送りいただき、お振込みを確認いたしましたら、お申込み完了となります。振込み手数料はご負担くださいますよう、お願いいたします。

振込先 三菱東京UFJ銀行 神田駅前支店 普通預金 口座番号：2186645
名義：本草薬膳学院（ホンゾウヤクゼンガクイン） 辰巳 洋（タツミ ナミ）

-----切り取り線-----

本草薬膳学院 特別講座「中国医書の歴史を観る」申込書

FAX：03-3662-3800

お名前：_____

ご住所：(〒 _____) _____

TEL：_____ FAX：_____

携帯番号：_____

※ご希望の回にレ印をお願いいたします。

- 全5回
 2014年7月23日(水)
 2014年8月27日(水)
 2014年9月24日(水)
 2014年10月22日(水)
 2014年11月19日(水)

昨年紹介した『大観本草』

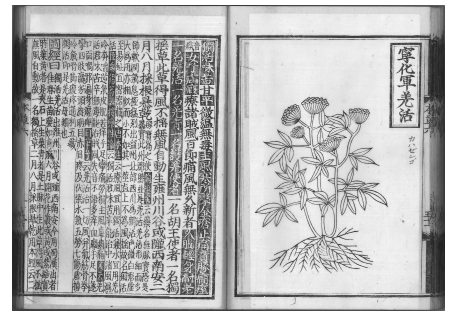
安部 郁子(あべいくこ)先生のプロフィール

1981年 早稲田大学第一文学部文芸科卒業

2005年より現職

公益財団法人研医会 研医会図書館長

研究員



安部郁子先生からのメッセージ

私の所属する公益財団法人研医会は、もともとは眼科文献を集める図書館として昭和28年に設立されました。その傍ら、初代理事長中泉行正は古書に興味を持ち、江戸時代あるいはそれ以前の和書漢籍をもコレクションし、研医会図書館は、現代影印版の元となる書籍や珍しい本のある図書館として研究者の方々には知られているようです。

私が古医書を読み始めたのは着任した10年前からですが、振り返ると意外にこの世界につながる勉強を続けていたようにも思います。最初は小学生か中学生の頃NHKの番組で「シルクロード」に出会い、仏教の東漸や古代の工芸品に惹かれて本を読み始め、高校では夏休みのレポートに東西交流のテーマを選んで40枚近くの原稿を書きました。大学では、『水滸伝』の訳者である中国文学の駒田信二先生と、『早稲田文学』編集長であったフランス現代文学の平岡篤頼先生のゼミに入り、研究科目として漢詩、正倉院工芸品に関する美術史、あるいは六朝時代の『世説新語』の演習などを取っていました。

一旦は機械メーカーに就職しましたが結婚を機に退職、その後は第2子が生まれるまでコピーライターとして企業レポートなどを書いていました。子育て中は自由な時間を活かし、再び仏教美術やシルクロード関連の文献や本を読み、博物館や美術館に通って楽しんでおりました。今になって、美術や歴史の知識を医書の研究にも生かすことができ、人間何がどこに繋がるかわからないものだと驚いております。

現在『臨床眼科』に寄稿している「文庫の窓から」は前任者から数えると35年に渡って掲載していただいている研医会図書館所蔵本の紹介文です。今回はこうした本の研究をしながら学んできた中国医書や日本の医学の歴史について、皆様にお話したいと思います。古来密接な関係を持っている中医学と日本の医学について、考察していただく機会となれば幸いです。